わがまち紹介

森林（もり）と清流（みず）　つくる・つながる　にぎわいのまち
遠軽町

遠軽町基礎データ

総人口（住基台帳）	19,358人（R２.12末現在）	製造品出荷総額等（総額）	9,972百万円（工業統計調査　R１）
老齢人口（高齢化率）	7,241人（37.41%）	卸・小売年間販売額	41,562百万円（経済センサス活動調査　H28）
世帯数	10,143世帯（R２.12末現在）	一般会計規模（歳出額予算ベース）	19,591百万円（R２当初予算）
人口密度	7.61人／㎢	町の花	コスモス
面積	1,332.45㎢	町の木	藤、エゾヤマザクラ
農業産出額	7,180百万円（農業産出額推計　H30）	町の石	黒曜石
		町の魚	ヤマベ
漁獲高（金額ベース）	－	町の蝶	オオイチモンジ

遠軽町の紹介

本町は、平成17年10月１日に、遠軽町、生田原町、丸瀬布町、白滝村の４町村が合併し、新たな「遠軽町」として誕生しました。北海道の北東部、オホーツク管内のほぼ中央、内陸側に位置しており、東西47キロメートル、南北46キロメートルにわたる緑豊かな町です。遠軽（えんがる）という地名は、町のシンボルである瞰望岩（がんぼういわ）をアイヌ語で「インカルシ（山頂から視界の広い、見晴らしのよい）」と呼ぶことから由来しています。

本町は、第１次産業である農林水産業と１次産品を製造・加工する製造業をベースに、国や北海道の機関、医療、教育、商業施設などの都市機能が集積しているとともに、道路や鉄道、バスなどの交通動線の中心ともなっていることから、今日まで、遠軽紋別地域の中心地の一つとして発展してきました。中でも、医療や教育の面では、近隣市町村からの通院・通学といった結びつきが一層強まってきており、これらの機能を維持することが、この地域における本町の重要な役割となっています。特に、遠紋地域二次医療圏域の地域センター病院である遠軽厚生病院は、医療を通じ周辺地域の一次産業を支える役割を果たしており、この地域で人々が生活する上で欠かせないものとなっております。

本町のまちづくりの指針である「第２次遠軽町総合計画」では、目指すまちの将来像を「森林（もり）と清流（みず）　つくる・つながる　にぎわいのまち」と定め、これまで、先人が歩んできた過去とこれから歩んでいく未来への持続性をはじめ、自然環境と共生する人と自然とのつながり、暮らしに身近な人たちとのつながり、子どもからお年寄りまで世代を超えたつながり、多様な活動や交流によって生まれる新たな人とのつながり、交通の要衝として繁栄してきた歴史と今後の新たな地域へのつながりなど、さまざまな“つながり”を大切にしものづくりや人づくり、生きがいづくり、暮らしやすい環境づくりなど、笑顔と元気とやさしさにあふれた、にぎわいのある町を

“つくる”という思いを強く持ち、まちづくりを進めています。

オホーツクの玄関口「道の駅　遠軽　森のオホーツク」

本町では、令和元年12月に、道央圏とオホーツク圏を結ぶ高規格幹線道路旭川紋別自動車道の延伸にあわせて、遠軽インターチェンジに隣接するえんがるロックバレースキー場のロッジを併設した北海道で唯一となる道の駅「遠軽　森のオホーツク」を整備しました。この道の駅は、オホーツクの玄関口として、オホーツクの観光情報の発信や特産品の展示販売をしているほか足湯施設も完備しており、ドライバーの皆さんの疲労回復と心身のリフレッシュの場として、最適な場所となっております。

昨年は、この道の駅に、森林資源を活用した「ツリートレッキング」などのアクティビティがオープンし、地域のにぎわいを創出しているところですが、本年は、さらに夏場でもスキーを楽しめる「サマーゲレンデ」や、日本一スリリングな長距離滑降が楽しめる「ジップライン」のオープンを予定しています。冬場のスキーはもちろん、年間を通して楽しめる道の駅として、多くの方にご利用いただける施設として期待しています。

道の駅　遠軽　森のオホーツク（正面側）

足湯施設

ツリートレッキング

大会・合宿等による交流人口拡大

高規格幹線道路旭川紋別自動車道の延伸に伴っては、観光面ばかりではなく、各種大会・合宿の誘致にも取り組んでいます。

FIS公認の国際アルペンスキー大会である「ファーイーストカップ」を開催する「えんがるロックバレースキー場」は、全日本クラスの合宿が行われる本格派のゲレンデで、令和元年にナイター照明を更新し、山頂からの滑走が夜間もできるようになり、１日を通して急斜面でのトレーニングが可能となりました。

また、平成29年５月には、オホーツク管内では初めてとなる、ラグビーやサッカーができる人工芝の球技場「えんがる球技場」をオープンしました。これにより、雨天時でも

ピッチコンディションを気にすることなく、合宿の受入れや大会を開催することができるようになりラグビーの全道大会やサッカーの主要管内大会が開催、さらなるスポーツ合宿の受入れ拡大を図っています。

人工芝の球技場「えんがる球技場」

令和４年には、本町の長年の懸案事項であった音楽ホールを備えた「遠軽町芸術文化交流プラザ」がオープン予定です。今後は、スポーツばかりではなく、本町で盛んな音楽活動やそのほかの芸術・文化活動についても、この施設を拠点に、イベントや催しを積極的に展開していきたいと考えています。

芸術文化交流プラザ（イメージ図）

ふるさと遠軽町を支える生徒を応援

本町には、道立の遠軽高等学校があり、校訓「文武両道」のもと、生徒たちが学習面や部活動で目覚ましい活躍を見せています。「21世紀枠」で甲子園出場経験のある野球部や花園出場10回を誇るラグビーフットボール部、全日本吹奏楽コンクールに過去９回出場している吹奏楽局など、全国レベルの部活動が数多くあり、道内各地から多くの生徒たちが、全国大会を目指して入学しています。

全国的に少子化による学校の統廃合が相次ぐ中、この恵まれた教育環境を守り続け、地域の教育力の低下を招かないよう、本町では様々な取り組みを行っています。遠軽地区以外からバス・JR等で通学する生徒や下宿から通学する生徒への費用の助成、全国大会出場の経費を支援しているほか、遠征時の貸切バス等の費用補助を行い、部活動にかかる保護者の負担を軽減し、若い力を全力でバックアップしています。

この遠軽高等学校で力を育んだ生徒たちが、やがて、ふるさと遠軽町を支える力となってくれるよう、遠軽高等学校の生徒を精一杯応援しています。

北海道遠軽高等学校

遠軽町の四季

【春】桜・芝ざくら

【夏】丸瀬布森林公園いこいの森

【秋】コスモス園

【冬】氷結の山彦の滝ライトアップ